修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
２丁目8―7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）３６３３７

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。

（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

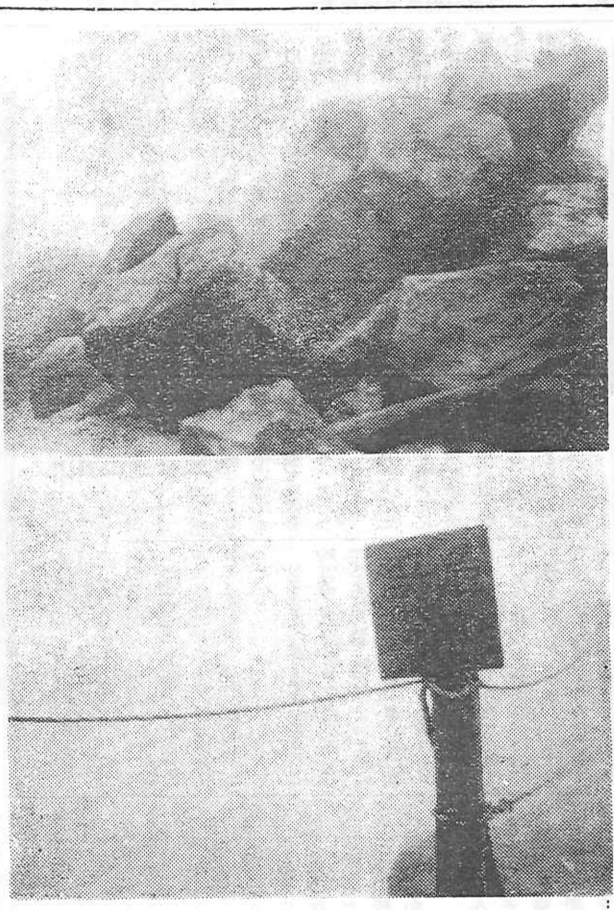
誰が幼い生命を……

大涌谷の落石事故

出入自由の危険地

〃管理責任〃からみ合う

四月二十七日、国立公園箱根大涌谷で修学旅行にきていた千葉県安房郡江見町の曽呂小学校女子六年生一名が落石のため死亡、三名が負傷する事故が起きた。全修協本部ではただちに広報部長を現場に派遣、その原因調査にあたらせた。さらに広報部長は悲しみに 閉される千葉県の 同小学校にも急行、取材した。現地にみたものは安全対策の不備と、それをかもし出す国立公園内の民有地管理問題に遠因があった。以下はその報告記である。（関連記事と写真、二面にも）



㊤風雨の現場付近は大きな岩石が無気味な姿でころがっている。㊦警察の指示で急拠立てられた立入禁止の標識。（大涌谷で）

現地ルポ

けむるような若葉のかげから八重桜の 花が 舞う。国立公園箱根はいま行楽のシーズン。しかし記者のかけつけた事故発生の翌四月二十八日は深い霧がたちこめ、時々横なぐりの雨が降り荒れていた。気温も下り手の指が冷たい。

大涌谷の自動車ターミナルにある食堂は重いガラス戸を閉じ、なかには客の姿は見えない。そこから舗装された山道を登る。雨風はいよいよはげしくコンクリートの山道が滝のようになる。

約百㍍で〃黒玉子売店〃の小屋につく。噴気の熱で鶏卵をゆで、売っているところだ。この売店もぴたりと戸を閉じていて人影がない。ここは現場に一番近い売店。

記者は、事故の直後、小田原警察の指示で急拠張りめぐられた〃立入禁止〃の張り綱をくぐって、さらに上部へ登ろうとしたが、雨と風と、そして物凄い硫黄のけむりで一㍍先きが見えないくらい。そして呼吸も苦しい。――あらしのなかの孤独。それも視界をさえ切られた断絶の世界に立った記者は一瞬、〃岩石がくずれ落ちる〃という恐怖感におそわれた。全身濡れたネズミのまま、記者はその売店の屋根の下に身を寄せたまま約三十分。天候は回復せず、遂に事故現場への踏破へは断念した。

事故の現場はこの売店から約三十㍍ある石段をのぼり、さらに二十㍍奥まった岩石地帯で起った。その現場をこの眼で直接みられなかったことを残念に思うのだ。

暴風雨のような天候が断続し、また、熱気が加われば地盤のゆるむのも当然だろう。さらに大きな岩石でも長年の風化のため亀裂を生じ、わずかな衝撃でも割れくずれを生じるに違いない。

記者は自動車ターミナルの食堂〃富士見茶屋〃へ行く。事務所では小田原警察署員が調書を取っている最中であった。地元関係者のほか曽呂小学校引率責任者の山下幸二教頭の顔も見えた。午後四時ごろ警察署員が引き上げたあと記者は関係者から事情をきいた。

そして桃源台付近にある箱根地区公園管理事務所で係官から事故発生の原因や今後の対策などについていろいろ聞いた。その談話をまとめると①従来、無事故だったため安心感があった②防備対策については国立公園内の民有地という特異なケースも事故発生の遠因ではなかったか、の二点にしぼられるようだ。

いずれにせよ、このようなことは修学旅行生や観光客には何のかかわり合いはない。要するに〃安全〃を忘れた対策に非難を向けるばかりだ。

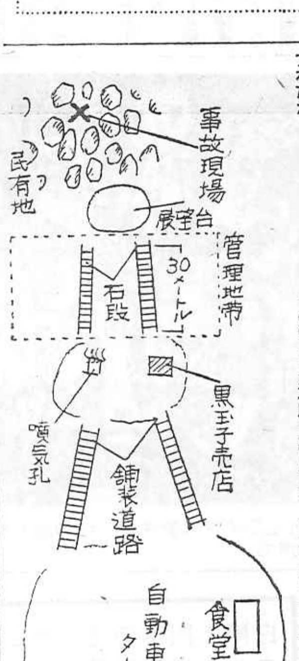
無事故の安心感が

今まで数多くの内外観光客や修学旅行団体を送り迎えたこの大涌谷では、かつて大きな人身事故はほとんど無かったという。

事故現場は岩石地帯だが、〃岩のごとく動かず〃のことわざ通り受け取るのが人情、しかも長いあいだその通りだった。しかし大自然は生きていた。動かない筈の岩石が地盤のゆるみで落下したり、亀裂を生ずることだってあり得るだろう。〃無事故〃という甘い先入観がおそろしい結果を生んだ。

〃黒玉子売店〃からの山道は左右二本の石段で展望台に通じている。展望台は約五十名くらい収容でき、石段利用の回遊式。はじめはこの〃黒玉子売店〃までしか行けなかったが、三年ほど前、奥で新しい噴気孔が出現、これを見にいく観光客が急に増えた。管理事務所では危険防止のため民有地の一部を借り受け、石段を作った。

事故現物は民有地で、展望台からは柵もなく全くの出入自由。管理事務所の親切心も今となっては仇となった感が深い。しかし、記者は関係者の言葉のなかから〃責任転嫁〃の意味を感じ取ることができた。せんじつめれば〃国立公園のなかの民有地の存在〃が、いかに困難で重大な立場にあるということを……。



現場付近の見取図。岩石地帯で足場が悪く、雨や霧のため地盤がゆるんだか、風化作用で岩石がくずれたか。

今後は安全第一主義で

箱根地区公園管理事務所管理課長
小島　秀夫氏談

小島　秀夫氏

このような事故が発生したことは、この地区を管理するものとして責任を感じている。現場は岩石地帯で、今までこの種の事故は起きなかった。三年ほど前、新しい噴煙地ができ、そこへ登る人が多くなった。危険防止のため管理事務所では民有地を借り受けて石段を作ったのだが、考えればむしろこのような石段を設けなかったほうがよかった。現場が民有地である以上、われわれとしては干渉もできぬが、国立公園として指定されている区域内のことだから今後は協力して安全を図りたい。

経過

千葉県安房郡江見町曽呂の曽呂小学校六年生三十八名は四月二十七日朝、山下幸二教頭ほか三教諭に引率されてバスで学校を出発した。行程は一泊二日で千葉県の金谷からフェリボートで横須賀市久里浜に渡り、江の島のマリン・ランドを見学したあと遊覧船で芦ノ湖へ、そして午後三時ごろ現場に到着した。展望台から岩石地帯に入ったところで突然一㌧あまりの岩石が落下、石井公子さん（一二）は顔面に重傷を負い、直ちに救急車で小田原市の小林病院で手当てを受けたが死亡、ほか三人が足などに一週間のけがをした。

そのあと旅行団は予定通り大涌谷の冠峰楼に宿泊、帰校した。

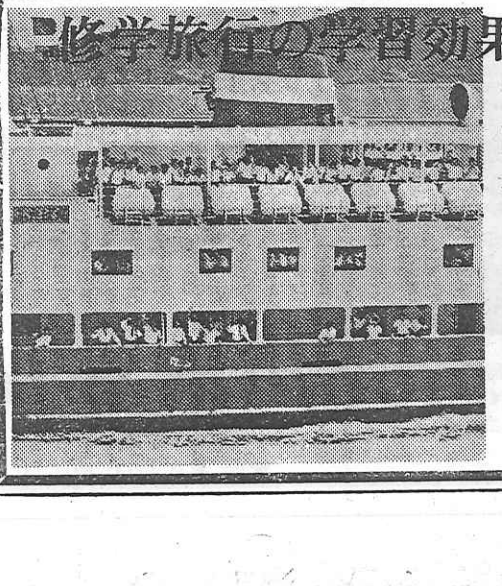
曽呂小学校

曽呂小学校は房総東西線・太海駅から西方約四㌔にあり、六学級百九十九名が在籍している。この地方は農業がさかんで、付近には曽呂鉱泉があり、静かな環境に恵まれている。現衆議院議員・元蔵相の水田三喜男氏も同校の出身。

風紋

▼冠ケ岳と神山の下にある大涌谷（約一千百㍍）は、水蒸気に混った硫化水素の噴煙が出ているところで、その温度は摂氏約百度ある。この噴煙は六十㍍ほどの深さに掘ったところから噴出しているのだが、谷底から聞える地響きは無気味だ。人工的に掘らぬと内部にたまったガスが爆発するおそれがあるという▼これら高温の硫化ガス中に水を通し、ガスのなかの成分を水に吸収させて温泉を作り旅館に供給している。人間の〃自然利用〃が現実にみられる。そのため県と地元では多額の費用を投じて〃野外教室〃を作り、解説板を整備し、歩道もコンクリートで固め、一周六百八十㍍、徒歩三十分のコースとなっている。しかし、この大涌谷では明治四十三年、昭和十年、同二十三年、同二十五年に地すべりが起きたこともあり、背中あわせの早雲山でも昭和二十八年に大きな地すべりがあり、十数名の犠牲者を出した。▼あたりの岩石の山肌は多量の噴気ガスで変質し、異様な姿をさらしている。まさに地獄谷の様相だ。植物は、わずかにススキやカリカスなどが生きのびているにすぎない。土壌は強い酸性にかわり、高い地熱のために成長を妨げているのだが、それに生きている植物たちは悪い環境によって細い根は死に、かろうじて太い根で外敵をふせぐ仕組みに変えている。葉の先きまでが枯れ、余分な葉をつけないのも貧弱な根に対応して生きていくためだという▼かっては日本温帯の代表的な落葉広葉樹のブナ、カエデ類にヒメシャラ、ヤマボウシなどを混えた立派な森林だった。その面影は神山の中腹でみられる。このような火山地帯は理科や社会科の生きた学習にきわめて重要なところだが、こんどのような事故の起きたのはまことに残念だ。日本の誇る箱根が依然として万人から愛される場所であることを望んでやまない。

充実した修学旅行
ツーリストをお役立てください
ツーリストでは意義ある行事をさらに充実させるために、事前、または事後学習用として“修学旅行映画”シリーズを製作しております。
●修学旅行映画シリーズ
奈良　京都　京都の庭園　富士箱根　日光
大和の国なか　大和の塔　火とみどりの国
瀬戸内海
（いずれも文部省選定、16ミリカラー、上映時間25～40分です）
電子計算機がおてつだいする　ひまわり窓口　「登録第20号」
近畿日本ツーリスト



修学旅行の学習効果向上のために
全船冷暖房完備の修学旅行専用船
わかば丸・ふたば丸
旅客定員８０５名・1,100トン
●一般客との混乗がありません
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます
楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！
関西汽船
●お問合せは…大阪（441）9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

全修協と協力して

庄司校長　霊前に無事故を誓う

現地ルポ

江見町はフラワー・センターなど多くの観光客を集めている安房鴨川に近く、太平洋の荒波が眼下にひろがっている。房総東西線の太海（ふとみ）駅から山の方へ約四キロのところにこの曽呂小学校がある。すでに丘陵の田では田植えがはじまっていた。この静かな環境のなかにある曽呂小学校に衝撃的な悲報が飛び、町中はにわかにあわただしく、そして重い空気が流れた。

父の石井秋一氏、庄司校長、根本PTA会長らは夜を徹して小田原市の病院へ自動車をはしらせた。しかし、公子さんはすでに帰らぬ人となっていた。遺体をのせた霊柩車が自宅へついたのは二十八日の午後、迎える家族たちの怒りと悲しみはどんなであったろうか。

二十九日、記者が学校を訪れたとき、祝日にも拘わらず職員室には校長、PTA会長、全職員が集合していた。ほとんどが不眠と悲しみで眼をはらしている。広い校庭の隅で遊んでいるこどもたちの声が時々校舎のなかへうつろに響いてくる。

通夜のこと、葬儀のことなどを打合わせたあと、みんなは揃って公子さんの家へ出掛けることになった。

公子さんの家は学校からさらに約五キロも入ったところにある。五年あまり、登下校にかよった道には緑の野草がしげり、遅い春の風が空をよぎっていく。公子さんがもう再び歩かないこの長い道を、足取りも重く、みんなうなだれて歩いた。わらぶき屋根の、いかにも農家らしいたたずまい。開けひろげられた座敷には、すでに祭壇が飾られている。

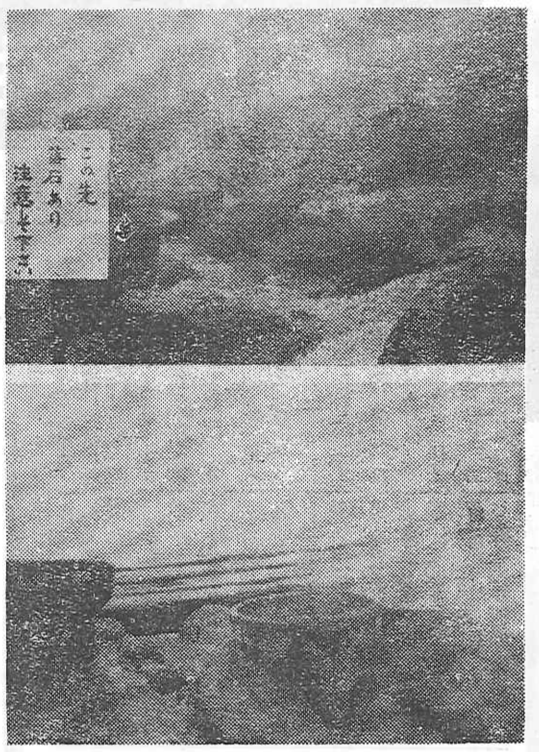
友だちからのおくりものや、津田神奈川県知事、亀井箱根町長らの生花にまじって公子さんが生前よく遊んだという人形もならんでいた。

祭壇のかたわらで母や姉たちの嗚咽が、みんなの涙をさそう。

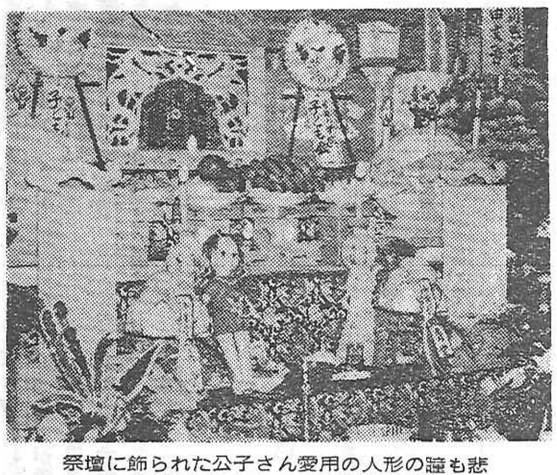
宵暗の田園には、しっとりと濡れた霧がたちこめはじめて、座敷の裸電球をにぶい光に変える。なにくれとなく世話をみる石井通雄町長、言葉少ない父の秋一氏…。祭壇のあかりだけがまぶしい。

やがて庄司校長は教職員を代表して霊前にぬかずき、こう語りかける。

―公子ちゃん、いま学校の先生がたみんなが来ました。あなたを突然襲った不幸な事故は、これからみんなが真面目に考えなければならないことです。つくづくとそう思います。ここに東京からお線香をあげにこられた全修協のかたもおられます。この協会は修学旅行を楽しく安全にしようと働いている会です。これからは日本全国のお友達がすばらしい修学旅行ができるよう、先生たちと手を組んで努力して下さるそうです。公子ちゃん、どうか静かに眠ってください……」



㊤このような注意書きだけで事故は防げるだろうか。㊦地鳴りをともなって蒸気を吐く噴気孔。（いずれも〝黒玉子売店〟付近で）



祭壇に飾られた公子さん愛用の人形の瞳も悲しい。（石井家で）

〝無責任きわまる〟

憤然と語る庄司校長

尊い犠牲者を出したことについて校長として残念でならない。このコースは毎年実施しているもので、こんな事故が起きるとは夢にも思わなかった。大涌谷は理科学習のために選んでいるのだが、危険ならば立入禁止にすべきであり無事故に馴れていたとすれば、あまりにも無責任だ。引率した教頭の話によると負傷した三人も教頭自身も同じ危険にさらされていたことがわかり、びっくりした。これからもたくさんの修学旅行生が訪れるだろうが、なによりも安全第一主義を考えねばならない。事故発生とともに売店をはじめ警察、病院のかたがたが寄せて下さった親切と厚意だけが、わずかにわれわれの気持ちを救ってくれた。ただこのような場合、団体としての処置が万全とはいかなかった。本校では九人の教職員のうち四人を同行させたが、事故発生と同時に教頭は警察、一人は病院、残る二人が児童たちといっしょというふうにバラバラとなった。私は警察にいる教頭と電話で直接話したかったが、取り調べ中で伝言だけにとどまった。このような場合、調査はあとでやってほしいと思った。ほかの子どもたちが行動中だということを知ってほしい。何百万人中で偶然起きたこの事故を再び繰り返さぬよう、国も県も地元も真剣に取り組んでもらいたい。とくに強力な組織を持つ全修協で強い対策をたて公子ちゃんの死を無駄にしないようにお願いしたいと思う。

庄司太郎校長

もう一瞬で大事故になるところ

曽呂小学校教頭　山下幸二氏

山下幸二教頭

まったく瞬間的な出来事だった。岩のくずれるような音で振り向くと公子さんが倒れかかっていた。私はそのそばにいた他の児童三人を抱きかかえて飛びのいたが、もう一瞬でさらに大きな事故となるところだった。いずれにしてもなくなった公子さんに対して何の言葉もない。これからは危険と思われる場所は〝立入禁止〟として事故を未然に防いでほしい。

割り切れぬ気持ちでいっぱい

公子さんの父　石井秋一氏

二十七日の朝、公子を学校まで送って行った。「帰ってきたらまた迎えにくるよ」といったが、これが最後の言葉となってしまった。災難といえばそれまでだが、親のわたしとしては割り切れぬ気持ちでいっぱいだ。このような事故は公子を最後として、もう再び起さぬようにしてもらいたい。

論点

箱根・大涌谷事故が教えるもの

箱根・大涌谷で起きた落石による小学生の事故死はわれわれ関係者に再び大きな衝撃を与えた。昨年十月、北アルプス白馬岳で神戸高校生の事故があった。いずれも修学旅行の団体で、国立公園内で起きた落石事故である。とくに今回のばあいは世界に誇る名勝地として毎年おそらく何百万かの内外観光客や修学旅行、遠足の児童生徒が訪れる箱根で発生した事件だけあってその反響はまことに大きい。

さいきん、修学旅行改善の一方途として一部の学校では京都や奈良などの古文化財学習から離れて、大自然に親しませる傾向にある。われわれとしてもこの新傾向には賛意を表するものであるが、それには安全対策にじゅうぶんな配慮がなされている場合に限られよう。

国立公園などでは、雄大な景観を持つかわり、危険な個所が決して少なくないことを知るべきである。箱根のごときは火山特有の諸現象が随所にみられ、事故のあった大涌谷では噴気孔のすさまじさが観察できるところで、多くの観光客や修学旅行団が見学のポイントとして選び出している。土地の観光会社が経営している〝黒玉子売店〟までの山道は多額の費用をかけて舗装をしているので安全地域だが、そこから上部は先ず危険地帯だといってよかろう。

現地報告によると、この売店からの石段は観光客安全対策の一つとして最近作ったものだそうだが、せっかくのこの親心も途中で行きどまり、さらに上部の無防備の岩石地帯で事故が起きた。

今から考えれば危険いっぱいの場所が野放し状態に置かれていたのである。なにが直接の原因であったかにせよ、この盲点は強く指弾されてもやむを得ないだろう。今まで無事故だったから―という先入感に加えて、国立公園内の民有地の管理問題が大きく浮かび上ってきた。

国立公園箱根の約一万一千㌶のうち民有地が約六〇％を占めているが、そのため従来から防備対策について県（国）との対立が若干みられたと報告されていることは残念である。もちろんそれぞれの立場があり、利害も関係するところもあろうが、われわれは国立公園を含めて人の集中する観光地全域に対し安全の総点検を強く要望するとともに、われわれも各機関を通じて総合的な対策にのり出すことを改めて決意するものである。

危険防止を依頼したばかり

奥箱根観光株式会社支配人　石村友佑氏

民有地とはいえ国立公園法でいろいろな規制のあるのが実情だ。例えば標識をたてたり、柵を設けるにしても許可が必要で、安全確保の点からもっと臨機応変でありたいと思う。事故の現場が民有地であっても、国立公園内だということを知ってほしい。まだほかにも危険な個所があるので、事故の日の午前、私は管理事務所に行って対策を依頼してきた矢先きのことだった。

みんなで卒直に自己反省を

黒玉子売店　峰　晋一氏

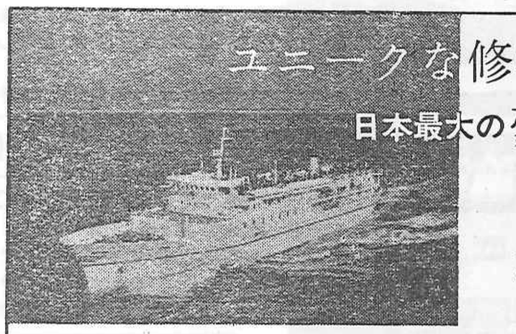
この日、晴れたり曇ったりの天候だった。私は急報ですぐ現場にかけつけたが、公子さんは顔などを打ち倒れていた。事故の起きた瞬間を見ていないので原因はあくまで憶測にすぎないが、地盤がゆるんだのか、風化作用でもろくなった石が何かの衝撃で割れたのかいずれかだと思う。私が公子さんを抱いたときには、まだわずかだったが脈膊はあった。ほんとうにかわいそうなことをした。

峰　晋一氏

私は以前、九州で中学校の教諭をしており、修学旅行を手がけたこともあるので、ここを訪れる修学旅行先には親しみを覚えている。〝これから先きは危険だろうか〟とよく訊ねられるが、私は〝危険と思われるところには近寄らないで〟と答えることにしている。こんどの事故でつくづく感じたのは、みんなが率直に自己反省することだ。これが故人に対する冥福だと思う。

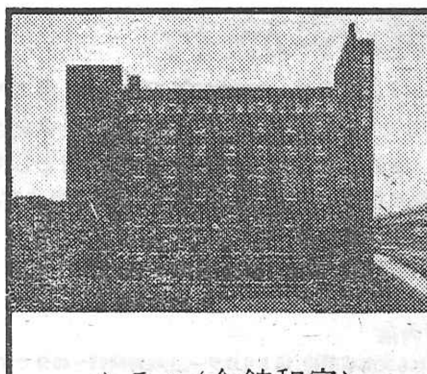
白樺と四季の花にかこ
まれた奥日光湯元温泉
そこは《友》を呼ぶ青春の泉

修学旅行の専用旅館
ニュー南間
奥日光高原ホテル
電話　028862－85（代）


ユニークな修学旅行に
日本最大の豪華観光船を
ふじ
〈3,000トン・22ノット〉
（完全冷暖房・定員1,800名）

45年4月には〈ふじ〉と同型の
〈にほん丸〉も就航します。
修学旅行専用船としてご利用
ください。

Ⓐ大島運輸
東京支店・中央区日本橋通1－6（浅野ビル）
電話　東京（273）8911（代表）


東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL（03）585－1046（代表）

東京　コマ旅行会館